

事業番号	10 04 05	事業改善シート（令和4年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	県営林事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課		
		実施期間	S47 ~	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp		
総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン2.0）との対応関係							
重点目標	①労働生産性						
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進		4-1 県土の強靱化				

1 現状と課題

県営林は、人工林の4割が60年生以上となっており、持続的な森林資源の循環を行うための主伐を計画的に進めていく必要があるが、主伐の実施にあたっては、搬出路の整備等のために財源を確保しなければならない。令和3年度においては、木材等を販売して収入を確保するために主伐や搬出間伐を計画したが、災害の発生等により、計画通りに事業を実施できなかった。

2 事業目的

持続的かつ自立した林業経営を図るため、伐期の多様化や適地適木による多様な森林の造成を行うとともに、新たな課題や要請に対応することにより、「地方林業の経営に模範を示し、もって林業の振興発展に寄与する」という県営林の目的の高度発揮を目指す。

3 予算のポイント・主な取組（当初予算又は補正予算時の実施予定）

- ①木材をはじめとした県営林から生産される林産物の販売
県営林を適切に管理・経営するための財源を確保するため、県営林内で生産される立木等を販売
- ②森林の現況を正確に把握し、必要な森林整備を実施
県営林の健全な状態を維持するため、間伐等の森林整備を実施
- ③県有林の森林整備により達成されたCO2吸収量をクレジット化
県営林を適切に管理・経営するための財源を確保するため、県営林におけるCO2吸収量の認証を申請

4 成果指標

(推移の凡例 ↗:改善 ↘:悪化 →:変化なし —:数値なし)

No.	指標名	単位	R2年度		R3年度		R4年度		R4年度 目標値	達成 状況	設定理由
			実績		実績	推移	実績	推移			
①	県営林生産物処分材積	m ³	1,414		3,975	↗	8,743	↗	30,800	未達成	6年間で100千m ³ の木材を生産することを第10次県営林管理経営計画において長期目標としているため、成果指標として設定し、令和4年度の計画量を目標とした
②	県営林間伐面積	ha	29		38	↗	30	↘	93	未達成	6年間で800haの間伐を実施することを第10次県営林管理経営計画において長期目標としているため、成果指標として設定し、令和4年度の計画量を目標とした

5 事業コスト

(単位:千円、人)

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R4年度	0	338,517	△ 95,785	242,732	157,992	230,761	4.0
R3年度	7,387	342,943	△ 82,663	267,667	160,022	256,318	4.0
R2年度	24,374	379,437	△ 124,943	278,868	161,299	264,664	4.0

事業番号	10 04 05	事業改善シート（令和4年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	県営林事業		部局	林務部	課・室	森林づくり推進課	

6 主な取組実績と成果

木材をはじめとした県営林から生産される林産物の販売

佐久管内で1件、上伊那管内で1件の主伐及び上伊那管内で2件、松本管内で1件の搬出間伐を実施した。また、他事業で伐採した立木を販売する伐倒木処分事業を松本管内で1件、長野管内で1件実施した。これにより、8,743㎡の立木を販売し、約48,000千円の収入を得た。



県営林における搬出間伐

森林の現況を正確に把握し、必要な森林整備を実施

県営林の森林整備について、現地調査と併せてGISデータ等を活用することで森林の現況を効率的に把握し、上田管内で1件、諏訪管内で2件、上伊那管内で3件、南信州管内で2件、木曽管内で1件、松本管内で2件、長野管内で1件、計12件の森林整備を実施した。森林整備の実施範囲等の情報はGISデータ化することで、県営林の効率的な管理に繋げることができた。

県有林の森林整備により達成されたCO2吸収量をクレジット化

令和4年9月にJ-クレジット制度事務局に対して、県営林J-クレジットプロジェクト登録地における森林のCO2吸収量の認証を申請し、令和5年3月に審査機関による申請内容の検証が終了した。その後、令和5年6月に開催されたJ-クレジット制度認証委員会における申請内容の確認を経て、5,173t-CO2の吸収量が認証、クレジット化された。

7 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	県営林生産物処分材積	R3年度推移	↗	R4年度推移	↗	達成状況	未達成
6年間で100千㎡の木材生産の実施を目標とし、令和4年度においては31千㎡の木材生産を目指して主伐・搬出間伐を実施していく予定だったが、災害により計画通りに事業を実施できない箇所が発生し、木材生産量は目標値を下回った。							
指標②	県営林間伐面積	R3年度推移	↗	R4年度推移	↘	達成状況	未達成
6年間で800haの間伐の実施を目標とし、令和4年度においては93haの間伐を目指して保育間伐・搬出間伐を実施していく予定だったが、災害により計画通りに事業を実施できない箇所が発生し、間伐実施面積は目標値を下回った。							

8 今後の事業の方向性

(1) 令和4年度の取組実績、成果指標の分析及び県民の意見等を踏まえた課題

県営林における主伐について、令和4年度は2件実施したところだが、県営林のGISデータを分析すると、主伐適地であると思われる箇所は数か所存在する。木材市場において、バイオマス燃料等の一部用途で木材需要が高まっており、県営林からの木材生産も期待されているところだが、県営林における本格的な主伐の実施については近年においてほとんど例がなく、安易な主伐は災害等の原因となる可能性がある。令和4年度に策定した第11次県営林管理経営計画において、主伐実施の方針を定めたところであり、主伐が災害等の原因とならないよう現地において詳細な調査を行い、適切に事業を実施する必要がある。

(2) 翌年度以降の事業改善の方策

主伐の計画・設計方法について研修を開催する、主伐予定地の現地調査に本庁職員が同行する等により現地機関をフォローすることで、適切な主伐が積極的に実施されるよう改善を図る。

事業番号	10 04 05	細事業一覧（令和4年度実施事業分）			<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	県営林事業			部局	林務部	課・室	森林づくり推進課	

細事業 No.	細事業名		R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額
1	県営林事業		264,664 千円	256,318 千円	230,761 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和4年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	県営林内の森林整備	直接	県営林の健全な状態を維持するため、間伐等の森林整備を実施 保育間伐：13ha、搬出間伐：17ha、下刈：13ha、獣害防除：4ha		
2	県営林内の路網整備	直接	県営林の維持管理のため、森林整備の実施に必要な路網施設の補修等を実施 路網施設補修及び改良：381m		
3	県営林生産物処分	直接	県営林を適切に管理・経営するための財源を確保するため、県営林内で生産される立木等を販売 立木及び伐倒木処分：8,743m ³ 、J-クレジット販売：12t-CO2		